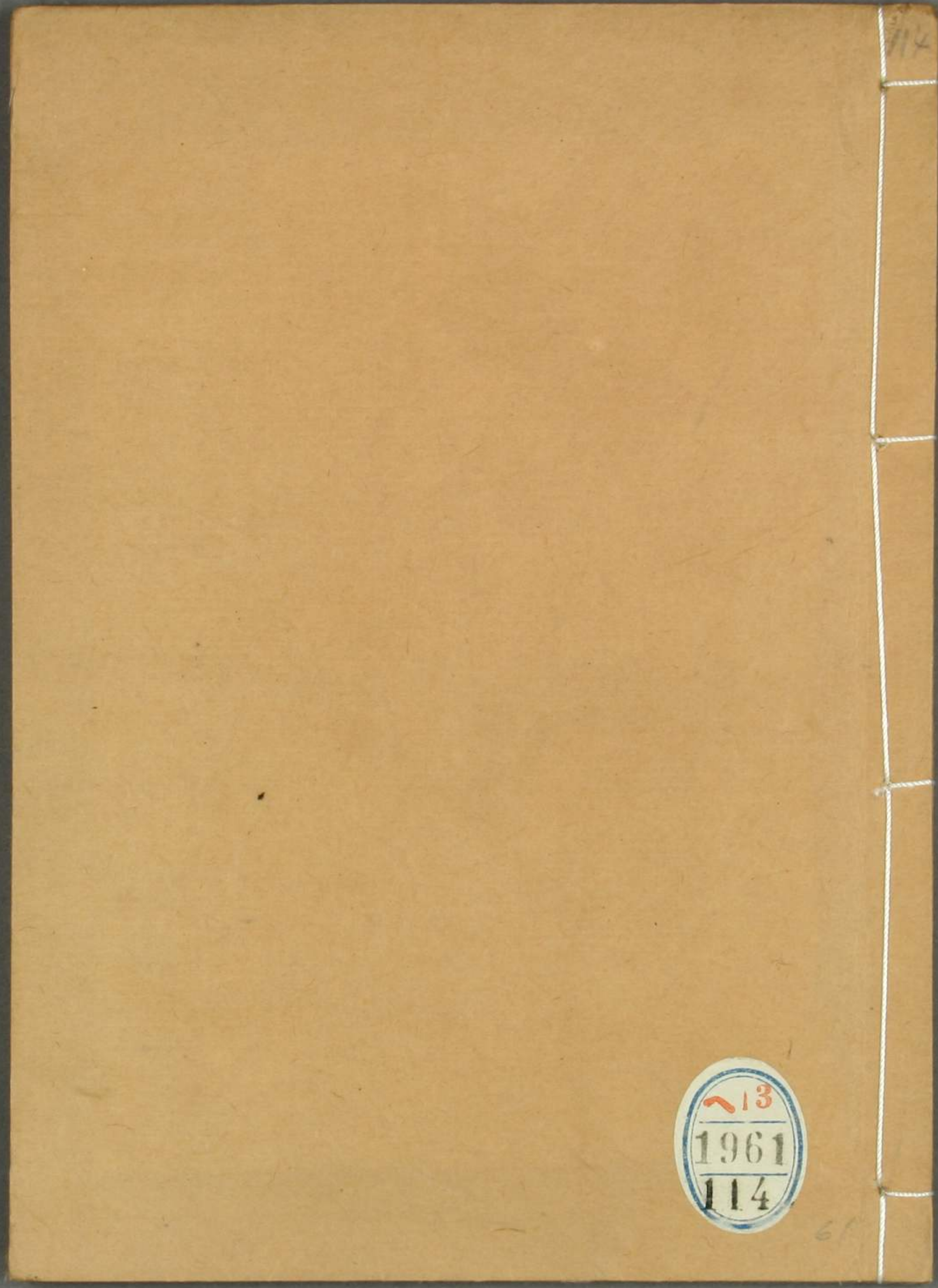


# KODAK Gray Scale



13  
1961  
114



秋  
改  
東蘇名白年月落際

遠  
1961  
61

1961  
114

六代目團子郎 東洋流 右白平月落際

市川の流は絶ぢて春も花も氷もあつた六代目團子郎  
お江戸の花の会より白ひ四葉菜蒸して其名はる花乃  
見せ梅実の入る五月雨のひ十ぬあり三つのおと花番  
の花はあつた世に牙の幸の風小吹折れて雪の老  
と啼白猿が悲しき見負百方人の涙も海も川  
下名をひ伎といひ梨雪の子多しといふ花の  
此人の有ふ人惜てと惜むさう三拜ありよと遊音乃  
戯作せしと例の存るが世の需小意で世紋の泪を  
現よ交りて子の命も長うござ成うみ酔よまひ云と  
中合る事

つく日兆

寛政十五年雨乞中れ十日

曲亭馬琴誌



市川



三途川氷地獄



あいつ  
さういふ  
たぐうつた  
やどいふ  
のそア  
さるん  
まのの  
まのめ  
うい  
あれが  
ア  
そのよう  
あつて  
ま

いふ  
けや  
のの  
さるん  
まのめ  
うい  
あれが  
ア  
そのよう  
あつて  
ま



あつて  
さるん  
まのの  
まのめ  
うい  
あれが  
ア  
そのよう  
あつて  
ま

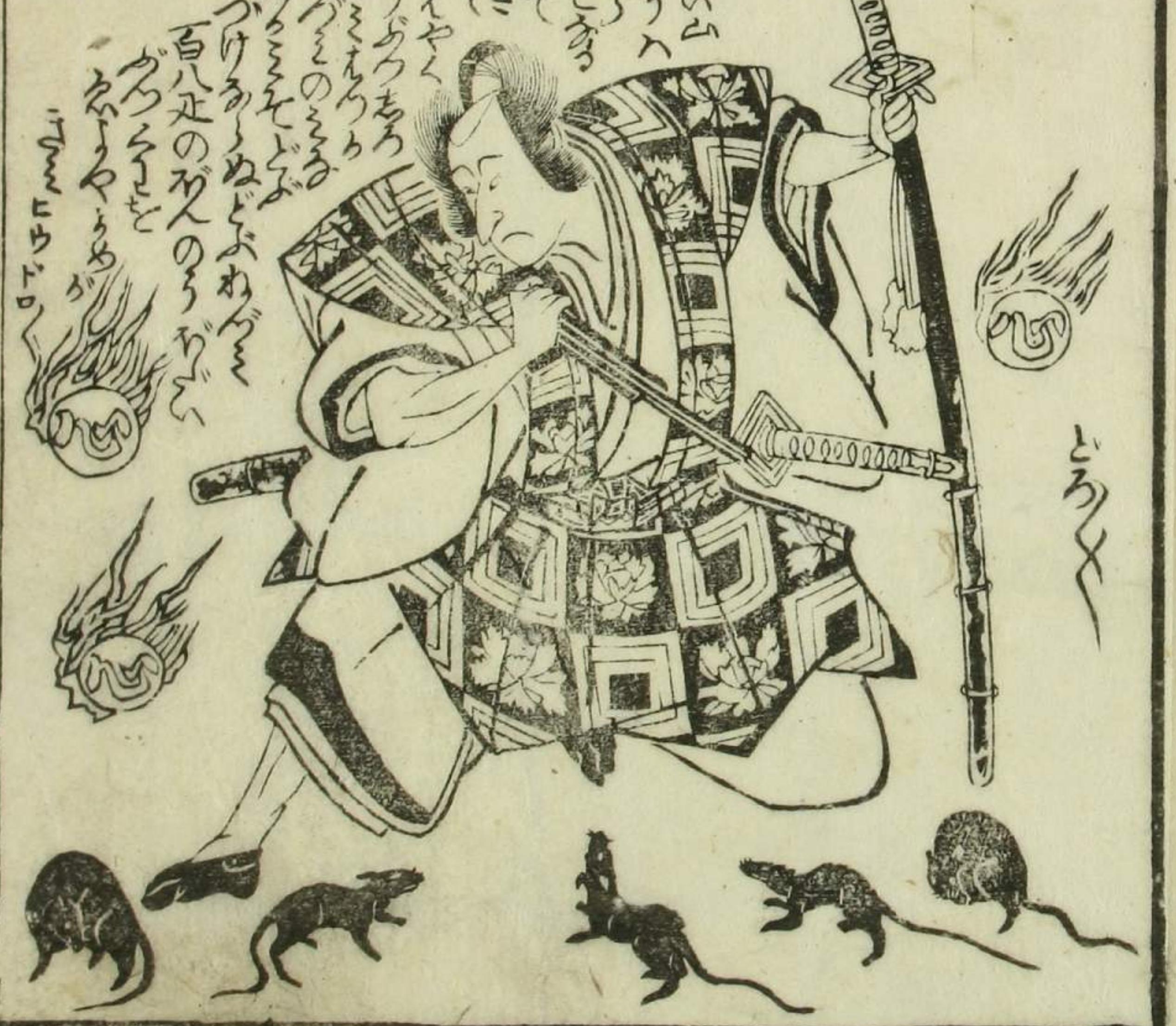
いふ  
けや  
のの  
さるん  
まのめ  
うい  
あれが  
ア  
そのよう  
あつて  
ま

いふ  
けや  
のの  
さるん  
まのめ  
うい  
あれが  
ア  
そのよう  
あつて  
ま





さてもしも... けしき...  
 うめりうら... けしき...  
 せりあて... けしき...  
 らろぐひ... けしき...  
 せりあて... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...



市川

さてもしも... けしき...  
 うめりうら... けしき...  
 せりあて... けしき...  
 らろぐひ... けしき...  
 せりあて... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...



さてもしも... けしき...  
 うめりうら... けしき...  
 せりあて... けしき...  
 らろぐひ... けしき...  
 せりあて... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...  
 まらと... けしき...  
 あらと... けしき...

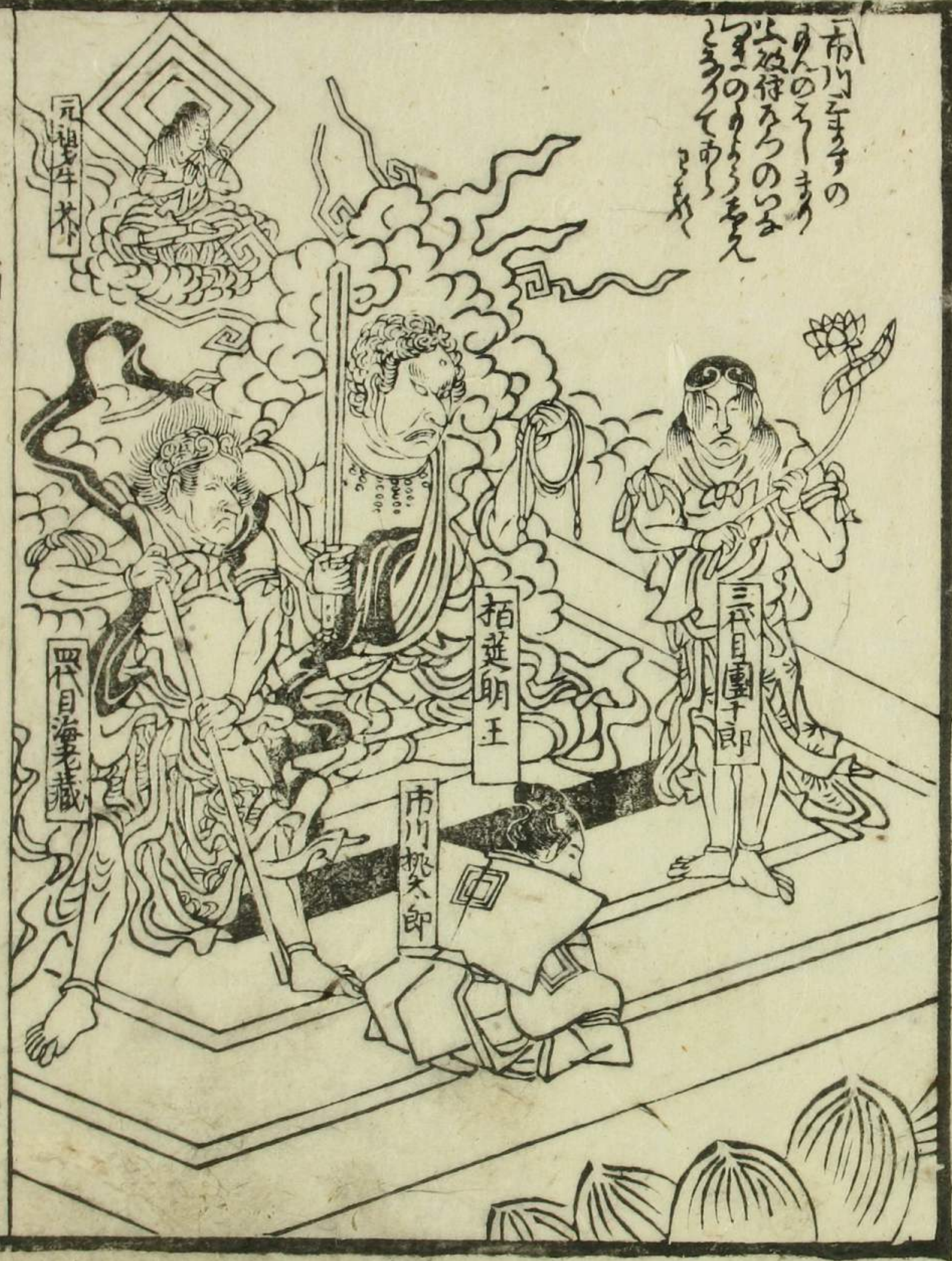








元祖牛若  
 三井園十郎  
 市川桃太郎  
 四目海老藏  
 市川五郎右衛門  
 市川五郎右衛門の  
 上役侍らるのいふ  
 ことなるてあり



市川五郎右衛門  
 市川五郎右衛門の  
 ことなるてあり



市川五郎右衛門の  
 ことなるてあり

市川五郎右衛門  
 市川五郎右衛門の  
 ことなるてあり

曲亭馬琴作

寛政十未年  
五月十三日  
皆樂言自到水刺

六代目之外、毎歳を成り、  
られ天のす年のものるうと  
市川にありて、  
おの中相のくううふあま  
くうのちやびひううん  
それよりえんくのうう  
あてあえんくもあま  
大それたことあり、  
まつとち—  
まれりのいき、  
たゆとこ  
あつとこ  
いあつとこ  
おとさうの  
りれ、  
ここの  
かろくを  
けん、  
をやうて、  
ううの、  
とま、  
この、  
この、  
けの、  
あり



此亭は  
ひらく  
叔者名所  
と申す、  
色出、  
は八、  
名を、  
誰入、  
中丸、  
せん、  
申入、

俎市川三并

あつとこ、  
可、  
あつとこ、

曲亭主人

